



あな
あなたを待つ フランスへ。



あ
あなたを待つ フランスへ。

これまでとは異なる環境にて迎えた2016年、フランス観光開発機構は、皆様の心に潜む「フランスに行きたい!」という気持ちを後押しし、勇気づけるキャンペーンを展開いたします。旅人が抱くどんな夢や希望にもあらゆる形の感動体験で応えてくれるのがフランスです。当キャンペーンでは、自分の心に耳を傾け、自分だけのオリジナルな旅をしたいと願う旅人や未来の旅人のお手伝いをいたします。

様々な感動体験に溢れたフランスは、それだけ独創的な取材な切り口が見つかる国だと言えるでしょう。プレスの皆様はこの資料から新たな取材のアイデアを見つけだし、フランスの魅力を伝えていただければ、このうえない幸せに存じます。当キャンペーンの成功に向け、皆様のペンの力をぜひお貸しいただけますように!

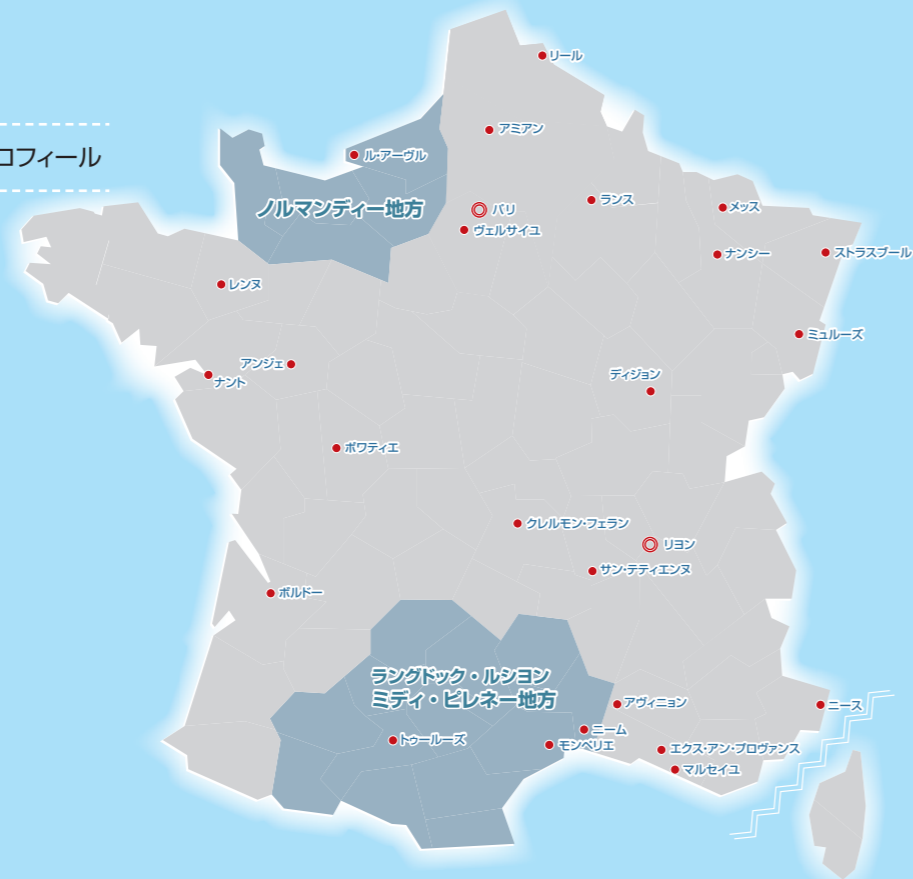
2016年3月24日 フランス観光開発機構



2016年度 フランス観光キャンペーン プレス資料

目次

- 03 今年フランスへ行く10の理由
- 04 2016年フランス観光親善大使プロフィール
- 05 キャンペーン概要
- 06 ミディ・ピレネーのみどころ
- 10 ノルマンディーのみどころ
- 12 フランス地方都市のみどころ
- 15 キャンペーンパートナー
- 19 世界遺産



●都市観光クラブ加盟都市 (フランスの地方都市)

今年フランスへ行く
10の理由

1 ツール・ド・フランスの開幕地(グラン・デパール)がモン・サン・ミッシェルに
7月2日 ▶10ページ

2 第3回ノルマンディー印象派フェスティバル開催
6月10日~7月10日

3 第3回ノルマンディー印象派フェスティバル開催 4月16日~9月26日
▶10ページ

4 ボルドーにシテ・デュ・ヴァン(ワイン博物館)が6月1日にオープン
▶13ページ



サン・シル・ラポピー ©CRTMP-Viet

5 ミディ運河が世界遺産登録20周年、ルイ14世の建設勅令から350年
▶8ページ

6 サン・シル・ラポピーとリクヴィルが、日本旅行業界(JATA)「ヨーロッパの美しい村30選」にランクイン

7 レオナルド・ダ・ヴィンチ渡仏500周年。クロ・リュセの応接間として使われていた「レオナルドのアトリエ」が公開。
5月16日より。

8 ラスコーに国際洞窟壁画芸術センター(ラスコー4)が2016年秋にオープン予定。
ラスコー洞窟の完全複製とラスコー発見の歴史を展示で紹介



ラ・シテ・ミュージカル

9 パリの新名所を訪れる
●ロダン美術館が2015年11月にリニューアルオープン
●レ・アールの再開発「ラ・カノベ」が2016年4月完成予定
●パリ郊外スガン島に坂茂設計のコンサートホール「ラ・シテ・ミュージカル」2016年末に完成予定

© Shigeru Ban Architects Europe - Jean de Gastines Architectes - Perspective Atelier Lansac

10 ル・コルビュジェ建築群、2016年世界遺産登録なるか
▶14ページ

EURO2016 フランスの10都市で開催 6月10日~7月10日

サッカー欧州選手権(ユーロ2016)は、欧州各国の代表チーム24により争われる4年に一度の選手権。フランスがホスト国となるのは3度目。競技が行われる10の都市はいずれもフランス有数の観光都市なので、試合観戦の前後では街歩きを楽しんで。ボルドー(Bordeaux)、ランス(Lens Agglo)、リール(Lille Métropole)、リヨン(Lyon)、マルセイユ(Marseille)、ニース(Nice)、パリ(Paris)、サン・ドニ(Saint-Denis)、サン・テティエンヌ(Saint-Étienne)、トゥールーズ(Toulouse)
<http://jp.france.fr/ja/euro-2016>



今年日本で開催されるフランス関連の主要展覧会

- レオナルド・ダ・ヴィンチ 天才の挑戦 / 江戸東京博物館 1月16日~4月10日
- ルノワール展 / 国立新美術館 4月27日-8月22日
- ポンピドゥー・センター傑作展 / 東京都美術館 6月11日-9月22日
- ゴッホとゴーギャン展 / 東京都美術館 10月8日~12月18日
- ラスコー洞窟壁画展 / 国立科学博物館 2016年11月~2017年2月

プロフィール

中村江里子 フリーアナウンサー
Eriko NAKAMURA



1969年東京都生まれ。立教大学経済学部卒業後、フジテレビのアナウンサーを経て、フリーアナウンサーとなる。
フジテレビアナウンサーとして「どうなるの?」、「カルトQ」、「プロ野球ニュース」、「とんねるずのみなさんのおかげです」などの数々の人気番組に出演。

1999年3月、フジテレビを退職。

2001年にフランス人のシャルル・エドワード・バルト氏(化粧品会社経営)と結婚し、生活の拠点をパリに移す。

妻であり、11歳、8歳、5歳の3児の母でもある。

現在は、パリと東京を行き来しながら、双方のよさを知る中村江里子ならではの視点からセレクトした情報などを紹介する、自身のパーソナルマガジン「セゾン・ド・エリコ」vol.1~4を扶桑社より刊行。

ブログではパリ情報、家族のこと、日本とフランスの子育ての違い、最近ハマっている美容のこと、ヴァカンス情報などを掲載しており、月60万PV数を超える。

また、Webでは朝日デジタル&Mで「中村江里子 パリからあなたへ」のコラムを連載(月2回更新)。

他にも多数の著書執筆、テレビ、雑誌などで幅広く活動している。フランス暮らしで気に入っているのは、ちょっとした創意工夫で日々の生活が色彩豊かになるところ。目下、自宅のDIY(ブリコラージュ)に奮闘中。

新城幸也 プロロードレーサー
Yukiya ARASHIRO



1984年沖縄県石垣市生まれ。大学受験に失敗した新城は、旅行のつもりで訪れたフランスで自転車競技に出会い、プロロードレーサーになることを目指し、2002年に18歳で渡仏。2003年から2005年までフランスアマチュアチームでの活動を経て、2009年フランスのチームとプロ契約を結び、同年日本人選手として初めてツール・ド・フランスを完走。以降、計5回の出場と完走を果たす。

2012年のツール・ド・フランス第4ステージで果敢に逃げて敢闘賞を受賞し、日本人初のツール・ド・フランスの表彰台に立った。同年ロンドンオリンピック出場し、一般誌が企画した「オリンピック日本代表イケメン10人」に選ばれるなど、そのビジュアルからファッション誌などにも取り上げられ、テレビでの特集番組も多い。

世界選手権9位やアムステルゴールドレース10位など日本自転車史を次々と塗り替え、昨年までにジロ・デ・イタリア2回、ツール・ド・フランス5回、ヴェルタ・エスパーニャ1回と計8度のグランツール完走を果たしている。

またフランス伝統のレース、ツール・ドゥ・リムザンでも総合優勝するなど、フランスをはじめヨーロッパの自転車ファンからも絶大な人気を誇る、日本自転車ロードレースの第一人者であり、今年のリオオリンピック日本代表にも内定している。

フランスを拠点とした生活は今年で14年目となり、ツール・ド・フランス100回記念大会ではフランス中7か所の世界遺産がコースに組み込まれるなどレースはもちろんトレーニングでフランス全土を巡っているため、フランスのありとあらゆる風景を知り尽くす。

レースの合間には近所に住むチームメイトとホームパーティーを開き日本食を振舞うなど人生を愉しむフランススタイルを取り入れている。徹底した食生活の節制が求められる選手生活の中で、大好物のフランス産の牡蠣を食べるのが何よりの楽しみ。



キャンペーンタイトルとロゴ



- フランスへ旅立ちたいという気持ちを後押しします。
- リズム感ある軽快なロゴで楽しい旅立ちを予感させます。
- 他の誰でもない「あなた」のための旅を訴求。一人一人の記憶に残る体験型の旅を提案します。
- 日本からの旅行者をハートフルにお迎えします。

キャンペーンキービジュアル



DESTINATION ビジュアル



ミディ・ピレネー



ノルマンディー



フランスの都市

キャンペーンサイト

<http://jp.france.fr/taiken-report>

1. パートナーDESTINATIONの情報を中心に掲載
2. フランス旅行が当たる「フランス体験キャンペーン」を実施
 - フランス旅行を体験する「公式レポート」4名を一般公募し、その模様を動画とウェブコンテンツで公開します。
 - 応募期間は3/25 - 5/10、審査発表を経て6~7月に渡仏、動画コンテンツの公開拡散は9月予定

屋外広告

3月28日~4月3日(7日間) 都内交通機関で集中展開

1. 表参道駅地下通路 A2出口付近(表参道ヒルズ側)
 - 壁面17メートルにポスター掲出。 ● ビール広告で「フランスからの招待状」と題したフォトカード配布。
 - モニターでフランスの絶景動画掲出
2. JR 新宿駅構内広場(中央東口近く)
 - 大型電照パネルでミディ・ピレネーの絶景を掲載 ● 4月2日(土)と3日(日)の2日間はサンプリングイベント
3. 首都圏駅構内ネットワークポスター掲出(山手線15駅と横浜駅)
 - 新宿、東京、池袋、渋谷、新橋、秋葉原、上野、浜松町、恵比寿、原宿、高田馬場、目黒、田町、品川、有楽町、横浜

4月1日~4月30日(1ヵ月間)

デジタルサイネージでキャンペーン展開(30秒間ローテーション)
JR 東京駅、銀座駅 + 東京メトロ銀座駅、溜池山王駅

大自然と絶景が感動を呼ぶ ミディ・ピレネーみどころ

あなごを待つフランスへ。

南西フランス、大西洋と地中海の間に位置するミディ・ピレネー地方は、数々の絶景や世界遺産に溢れています。ピレネー山脈の大自然、天空の村や崖の上の村、奇跡の泉をもつパワースポット、のんびりと流れる運河、そしてワイン、フォアグラ、チーズ…。驚きに溢れながら未だ知られざるフランス。

トゥールーズの世界遺産いろいろ。ミディ運河は世界遺産登録から20周年

ミディ・ピレネー地方の中心都市トゥールーズ。独特な赤レンガの家が並び旧市街地の光景から、「バラ色の街 (la ville rose)」の異名をとっています。これは、ガロンヌ川が



トゥールーズのシンボル、キャピトル広場 © D.VIET

らとれる、ピンク色の粘土で作ったレンガを使用しているからだそう。世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」のサン・セルナン大聖堂にもこのレンガが使用されています。また、トゥールーズの街中をゆったりと流れ、地中海と大西洋を結ぶミディ運河は2016年の世界遺産登録から今年で20年の節目にあたります。運河クルーズや川岸の散歩、サイクリングなどいかがでしょうか。



ミディ運河トゥールーズ付近 © PenicheSamsaraToulouse

黒いマリアをまつる 崖の上の村 ロカマドゥール



ロカマドゥール 旧修道院宮殿のテラス © CRTMP/ P. Thebault

夕日が赤く石を染める岩壁の上にたつロカマドゥール。きつとこの村を訪れば、その昔、奇跡を呼ぶと伝えられた黒いマリアを崇めるために、人々が遠いところからノートルダム礼拝堂にやってきた時代へと、タイムスリップした気分になるでしょう。ロカマドゥールは下



ロカマドゥール夜景 © CRT MP P-Thebault

から順に門前町、中腹の聖域、頂上の城という構成になっています。まずフィエ門から色とりどりの店が並びクロヌーリ通りを歩き、233段もある大階段をあがるとロカマドゥールの中心部に到達。中央の広場には、古代の岩陰遺跡と7つの教会、ノートルダム礼拝堂があります。頂上の城は手入れが行き届いた庭はもちろん、美しい眺望も必見！

モン・サン・ミッシェルに次ぐ人気の聖地・ロカマドゥールは、アルズー渓谷の断崖絶壁の上にあります。昼間のうちは街の散歩や崖の聖域にある6つの礼拝堂を巡るなどの楽しみもありますが、夜の絶景も必見です。日没後、ロカマドゥールの断崖がライトアップされると、絵葉書のような素晴らしい風景が浮かび上がります。その景色を見るために、ぜひ村に1泊してみる価値があります。また、豊かな自然も特色のひとつ。翌朝は地上に降りて、パティラック鍾乳洞とドルドーニュ渓谷を訪れるのもおすすめです。

「バラ色の街」トゥールーズは今、「青の街」でもある！？

レンガ造りの建物が多く残るトゥールーズは、この土地のレンガの色から「バラ色の街」と呼ばれています。しかし今、「青の街」としても世界に知られ始めています。さて、バラ色と反する青の街とは一体……？

それは、トゥールーズの名産で青の染料であり、また薬草でもあるパステルにあります。中世にその交易でトゥールーズに富をもたらした、今でも多くのパステル商人の館が残っています。16世紀末、インドから青色の染料インディゴが輸入されると一時衰退しましたが、最近ではパステルの種から抽出される、エッセンシャルオイルを利用したコスメブランド「グレンヌ・ド・パステル」が成功を収めており、市内ホテルのアメニティに採用されることが多いのです。

空の青も「青の街」と呼ばれるもうひとつの理由です。トゥールーズは欧州最大の航空産業の街で、航空機製造のエアバス社もありません。2015年1月にオープンした航空博物館アエロスコピアでは、伝説のコンコルドなど本物の名機を展示。そしてエアバスA380の組立てラインを見学できるヴィジットもあります。航空郵便の創世記にトゥールーズでパイロットを務めたサン・テグジュペリが定



パステル染料 © Dominique VIET - CRT Midi Pyrénées

宿にしていたホテル「グラン・バルコン」のスイートルームで眠ったり…。また宇宙産業にも幅を広げていて、宇宙のテーマパーク、シテ・ド・レスバスでは、さまざまな宇宙旅行体験を楽しむことができます。



シテ・ド・レスバス © Manuel-Huyn

2016年はここに注目！

1. ミディ運河世界遺産登録から20周年、ルイ14世の建設勅令から350年
2. トゥールーズ・ロートレックのレシピを堪能しよう
3. ルルド、特別聖年にあたり聖なる扉が出現

コクク〜時間を越えた旅、ピエール・スーラージュのステンドグラス

ロット渓谷の急斜面にひっそりとたたずむ小村、コクク。世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」のなかのル・ピュイの道にある要所で、中世から栄えてきました。今も村に残る中世の偉大な建築家たちによる建物は、まるで時が止まったかのようにその当時の姿を見ることができ



コクク大聖堂付属教会、スーラージュのステンドグラス © Patrice THEBAULT - CRT Midi-Pyrénées

ます。そのため、コククの2つの建物がユネスコの世界遺産に登録されました。最後の審判を描いたタンパン（入口の扉の上の彫刻）で有名なサント・フォワ修道院付属教会と、ドゥルドゥー川をまたぐ巡礼の橋です。きらびやかな彫刻は美しいだけでなく、物語性に富んでいます。

コククのトレードマークのひとつ、大聖堂付属教会のステンドグラスは、1994年に世界的に有名な地元出身の画家ピエール・スーラージュが修復したことで話題になりました。スーラージュは、1919年にアヴェロン県ロデズ生まれ、黒の縞を描きながら「光を反射させる」という色彩への興味を追求し、「黒の画家」と呼ばれています。彼はこのステンドグラス



コクク © CRTMP D-Viet

を、「ロマネスク建築とそれを見る者の心に湧きあがる、感動に対する最大限の敬意の中にある光の泉」と表しています。2014年にはロデズにスーラージュ美術館がオープンし、コククのステンドグラスのための習作も展示されています。

天空の村 コルド・シュル・シエルは村まるごとアートギャラリー

遠くから見ると朝霧に包まれ、まるで天空に浮かんでいるかのように幻想的な姿を見せる、コルド・シュル・シエル。日本ではいうところの竹田城（兵庫県）を想像する人も多いと思います。きつと向かいの丘から望むコルド・シュル・シエルの姿は、生涯忘れられないものになることでしょう。13世紀に栄えたコルド・シュル・シエルは、外からの攻撃に備えて丘の上で要塞化しました。一度その門をくぐると、建物は様々な彫刻で彩られ、当時の豪華な様子が伺えます。多くの画家や職人が集まり、また貴族が建てた豪華な館などが広がっているからです。ここは遠くから見ても、近くから見ても美しい村なのです。

「この村では、一枚として同じテーマを描くことなく、一年中毎日絵を描くことができ、そしてどの作品も美しいものとなるだろう。ここは、夢の町だ」とは、アラビア



コルド・シュル・シエルの街並み © Cordes/ Vjorovic

のロレンスが残した言葉。村内を散策していると、多種多様なモチーフの美しい彫刻に出会えます。ふと見つけた建物の、砂岩でできた壁にはドラゴンや動物などで飾られていたりして……。これらには神秘的、伝統的な意味合いを持ち、また、さまざまなアーティストたちを刺激するものでもあります。村内には絵画や彫刻、陶芸などアーティストのアトリエや店舗があり、個性的な作品を展示、販売をしています。



コルド・シュル・シエルを望む © Tarn Tourisme / Luc Beziat

Topic

ミディ運河 工事開始から今年で350周年

ミディ運河にとって2016年は節目の年。ルイ14世が1666年10月7日に工事の勅令を出してから350年、さらに1996年に世界遺産の登録を受けてから20年目にあたるからです。運河ではあらゆる水路区間で、6月から8月にかけて、船の甲板上からワールドミュージックのコンサートを行う「フェスティバル・コンヴィヴァンシア Festival Convivencia」が開催されますが、じつはこれも今年20回目となり、パワーアップしたプログラムが期待されます。

運河ツーリズムの醍醐味のひとつが運河沿いのサイクリンです。ミディ運河でも世界遺産登録以降、サイクリストの数が増えています。樹齢数百年のプラタナスの木陰をゆったりとした気分で走るのはじつに気分がいいもの。途中で船を改造したレストランで休憩したり、宿泊施設になったボートに泊まりながら翌日の行程を続けることもできます。5〜9月はサイクリストのための荷物の回送サービス(www.bagafrance.com)もあるのでぜひ活用してみたいかが。



ミディ運河沿いでくつろぐ家族 © CRT MP D-Viet



あなただけのフランスへ。

ミディ運河 © CRTMP D-Viet

ピレネーロードトリップで一生に一度は見るべき自然美を目に焼き付けて

ピレネー有数の自然美のひとつで、世界遺産にも認定されたガヴァルニー圏谷は、3,000m級の山々がスプーンでくり抜かれたような自然のコロセウムです。2万年以上前にガヴァルニーからルルドまで氷河の浸食をうけたものの、時を経て溶けてなくなり、石灰岩からなる現在の地形ができあがりました。見渡すとモン・ベルデュ(3,352m)、ピック・デュ・マルボレ(3,248m)、タイロン(3,144m)といった名山に囲まれているので、まるで高さ1,700m、円周14Kmの巨大な壁に取り囲まれているような錯覚に陥るでしょう。この神々し



ピック・デュ・ミディ夜の展望台からの眺め ©CRT Midi-Pyrénées/Dominique VIET

い景色に、植物学者や科学者、小説家、画家、詩人、山岳家たちが魅了されました。

この自然美を一度見ようという人々が世界中から訪れます。観光ルートとしては、フランスとスペイン国境をジグザグと渡る、起伏に富んだ観光ルート『ピレネーロードトリップ』がおすすめです。コースにはガヴァルニー圏谷、奇跡の街ルルド、2つの国立自然公園、9つの湖、天然ダム、ピック・デュ・ミディなどがあり、どれも一生に一度は訪れたい名所ぞろい！道中はピレネーの圧倒的な絶景の連続で、冒険心を掻き立てられることでしょう。運動が苦手な人は短いルートが用意されているほか、車や鉄道、ロープウェイなどでもアクセスが可能です。

<http://www.pyrenees-trip.uk/Articles/Pyrenees-Road-Book>



ガヴァルニー圏谷 © HPTE Pierre Meyer

水の交差点 カナル・デ・ドゥー・メール

地中海と大西洋を結ぶドゥー・メール運河。プラタナスの木立に囲まれた世界でもほかに類をみない壮大な人工水路で、世界遺産のミディ運河(セートからトゥールーズまでの214km)とガロンヌ運河(トゥールーズからモンテッシュ、モワサックを通じてガロンヌ川河口までの200km)の2つから成っています。17世紀に作られ1万2千人もの人力をもって、川沿いに4万5千本の木を植え、水道橋など350もの建造物が作られたというのだから驚きです。



カコール運河橋 © CRT MP D-Viet

ガロンヌ運河が通過するモワサックでは、タルン川にかかるとなるカコール運河橋の上を船が渡る不思議な光景を見ることが出来ます。

17世紀の産業革命を支えたミディ運河は、南仏のワインを飛躍的にヒットさせるなどの功績がありました。現在では観光客を乗せて遊覧船が運河を行き来し、かつて船を曳きながら馬が歩いた側道は、ジョギングや散歩を楽しむ人々が行き交います。解説付きの運河クルーズに出るもよし、操船免許なしで借りられる宿泊施設付の小舟で一週間過ごすもよし。壮大な運河は見るだけでなく船に乗り当時の気分を体感できる世界遺産です。



ミディ運河 © Dominique VIET- CRT Midi-Pyrénées

奇跡の街、ルルドのロウソク行列

キリスト教の聖地ルルドは、聖母マリアの降臨や奇跡の逸話があります。人口約1万5000人のこの町に、奇跡を求めて年間600万人もの人々が訪れます。なかでも4月～10月の間、毎晩9時から行われるロウソク行列は、荘厳な光景が広がります。病に苦しむ人、そうでない人も奇跡を願ってロウソクを掲げ、祈りながら行列をします。その間は、カトリックの聖地でありながら国籍、言語、宗教の違いを超えて、参加するすべての人が心をひとつにするとき。一歩ずつゆっくり踏みしめながらノートルダム・デュ・ロゼール聖堂を中心にした聖地を巡ります。ちなみに、市内にある聖域の洞窟や泉の水をボトルに詰めて持ち帰ることもできます。

特別聖年につき、聖母マリアが出現した12月8日から1年間、聖なる扉が設置されています。2015年12月8日～2016年11月13日



毎晩行われるロウソク行列 © P. Vincent - OT Lourdes

手付かずの自然が残るルルド、レジャーやアクティビティも充実

敬虔な雰囲気にも包まれるルルドの町ですが、その一方で周辺は豊かな自然に囲まれ、気軽にレジャーやアクティビティが楽しめるスポットという一面もあります。特筆すべきは、ルルド近郊にある丘ピック・デュ・ジェール。100年以上前から運行されているケーブルカーで頂上までのほれば、周囲の絶景を見渡せます。また、ピック・デュ・ジェール西側には50ヘクタールもの氷河湖が広がり、トレッキング、マウンテンバイク、フィッシングやカヌー、カヤックなど大自然ならではのアクティビティが楽しめます。



ピック・デュ・ジェールのケーブルカー © P. Vincent-OT Lourdes

ユネスコ世界遺産の町、司教都市アルビ



ロートレックのポスター Affiche La troupe de Melle Eglantine, 1986 ©Cliché François Pons, Musée Toulouse-Lautrec, Albi, Tarn, France

オレンジ色のレンガと赤褐色の瓦が印象的な司教都市アルビ。散策すれば人々の芸術を愛する心や、優雅な日常生活を感じることができるでしょう。

アルビの街は2010年、世界遺産に登録されました。アルビの司教が住んでいたベルビ宮殿、完成までに約200年もの月日を要したレンガ造りのサント・セシル大聖堂などの宗教建築、そしてタルン川の南側に位置し、中世の古びたレンガの建物が連なる、旧市街の街並みが主な対象となっています。元アルビ司教館(13世紀～18世紀)であるベルビ宮殿は、



アルビ全景 © Patrice THEBAULT - CRT Midi-Pyrénées

フランス庭園とタルン川に臨む心地よい散歩道に囲まれています。ここは現在、トゥールーズ＝ロートレック美術館となっています。この美術館には、1864年にアルビに生まれ

た画家のアンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレックの世界最大のコレクションが展示されています。所蔵作品の中には、ロートレックが製作した全ポスターが含まれています。

南仏だけドスキー三昧、これぞピレネーの醍醐味

スペインとの国境にあるピレネー山脈の周辺には、たくさんスキー場があります。ピレネーの大自然は、都市化や産業化されたスキー場とは違い、ありのままの大自然の中でハイテクなスキーを楽しむことができます。またピレネーに広がる自然環境のおかげで、ほかでは得られないスキー体験ができます。たとえば、ピレネー国立公園やガヴァルニー圏谷の絶景や世界遺産に登録された孤高の山モン・ベルデュなど、スキーヤーにとっては真正正銘の聖地といえる環境が整っています。



フリーライドスキー © HPTE Goando Herranz

標高2,877mのピック・デュ・ミディは、ロープウェイを使えば15分で頂上まで登ることができます。晴れた朝は有名な展望台からピレネーの大パノラマを望めるだけでなく、夜には星空や日の出を観察するなど年間を通じて様々なイベントが用意されています。また、フリーライドをしたい人には周辺の高い山への中継点として利用することも可能です。そして、スキーを楽しんだ後は、地元グルメでお腹を満たしたい！ピレネーの小さな村々を訪れ、その土地の美味しい名物をたっぷり楽しみましょう。



シェフ・サン＝マルタン © HPTE RESTAURANT LE VISCOS

フランスでも日本でも人気急上昇、美しい村サン・シル・ラポピー

100メートルの断崖絶壁に立ち、ロット川を見下ろす中世の村で、その名も「ロット渓谷の真珠」といわれるサン・シル・ラポピー。フランス国内での人気はもとより、昨年は日本旅行業協会(JATA)の「ヨーロッパの美しい村30選」にもランクインし、国内外で人気急上昇中の村です。その魅力は中世の村が断崖絶壁に張り付いているかのような景色。路地の石置や、昔の家にあるようなゴシック風のファサード、家々の扉のノブの細かい細工、建物の石に刻まれた顔の彫刻などを見ながら路地を散策するのも楽しいもの。また、現在は廃墟となった城の高台から見られる、

まるで波のように広がる屋根の連なりは絶景です。

1950年代にはシュールレアリストの芸術家たちが、サン・シル・ラポピーの魅力に引き付けられ大勢集まってきました。その代表的な人物は、詩人で作家のアンドレ・ブルトン。サン・シル・ラポピーの美しい景色を目の当たりにした瞬間、「よそへ行きたいと思うことやめた」と明言しています。現在でも村の中心部にはアトリエやギャラリーで創作活動をするアーティストがいます。村内のデュラ館は世界中から集まったアーティストの芸術活動のために開放され、居住区と活動の場となっています。



空から見たロット渓谷とサン・シル・ラポピー © CRTMP - D. Viet



サン・シル・ラポピー ©CRTMP/P. Thebault

Topic

ロートレックの生まれ故郷アルビ、食通の画家が残したレシピを再現

日本でも人気の高い画家トゥールーズ＝ロートレック(1864～1901)は、アルビに生まれました。彼の死後、落書きやデッサン、パリで描きポスターにもなったものなど、約1000点にもおよぶ作品をアルビ市が引き継ぎ、ベルビ宮殿にあるトゥールーズ＝ロートレック美術館に所蔵されています。画家はレシピ本を残したほどの食通であり、メルクールホテル内のレストランではそのレシピを再現したメニューがあります。さらに、タルンとトゥールーズの間に位置するガイヤックの地元食材店「ラ・アール・オ・テロワール La Hall aux Terroirs」では、ロートレックレシピを教えてくださいの料理教室もあります

ラ・アール・オ・テロワールの料理教室 © Asami KUCHIO



ミディ・ピレネー地方観光 www.tourisme-midi-pyrenees.com

プレスコンタクト: Cécile SENARD セシル・セナール
cecile.senard@crtmp.com



ミディ・ピレネー地方観光局施策 / EU出資プロジェクト

あなを待つフランスへ。

芸術の足跡をたどる旅 ノルマンディーみどころ



大瀬のモン・サン・ミッシェル © Sabina Lorkin

パリから近い北西フランスのノルマンディー地方。有名なモン・サン・ミッシェルやエトルタの断崖などの海沿いの絶景があり、印象派画家たちの聖地として数々の傑作が描かれた土地でもあります。小さな街を歩いたり、チーズやシードルのグルメも楽しみな地方です。

モン・サン・ミッシェル湾の満潮を裸足で体験！

「西洋の驚異」とも呼ばれるモン・サン・ミッシェルは、ヨーロッパ一干満差の激しいモン・サン・ミッシェル湾に浮かぶ小島で、その面積のほとんどを要塞化した修道院で占められています。世界遺産でもあるこの地は、満潮時になると島が孤立するため、ある時は修道院、ある時は監獄にと、歴史の中で様々なドラマを生み出しました。潮の満ち引きにより竹まきを変える神秘的な美しさは今も昔も変わらず、瞬く間に地続きだった浜辺に潮が満ちていく様は圧巻です。



裸足でモン・サン・ミッシェルを渡る © Thierry HOUYEL

モン・サン・ミッシェル湾は干潮時に歩いて対岸のトンブレヌ岩まで裸足で渡ることができます。足裏に感じるひんやりした感覚と、目の前で刻一刻と変わる湾の光景は、いつまでも記憶に残ることでしょ。



2016年ツール・ド・フランス モン・サン・ミッシェルからスタート © A.S.O.

ちなみに今年、世界最高峰自転車レースのツール・ド・フランスは、7月2日土曜日にこのモン・サン・ミッシェルからスタートします。世界遺産モン・サン・ミッシェルは2013年のツール・ド・フランス100回記念大会でもタイムトライアルのゴール地として選ばれ、この時も多くの日本人ファンが現地に応援に詰めかけました。

VIPの社交場、競馬場へ行こう！

ドーヴァー海峡に面した観光地として名高いドーヴィルは、映画「男と女」の舞台となりました。このクロード・ルルーシュ監督の大ヒット映画のおかげで有名になったのが、海岸の板張りの遊歩道レ・ブランシュ。1253メートルに渡って伸びる遊歩道を歩けば、みんなが「トタバタバタ〜」と口ずさむこと間違いなし！夏になると昔ながらのヨーロッパの海水浴場の様子が楽しめます。カラフルなバラソと小屋（キャビン）がずらりと並び、小屋にはそれぞれドーヴィルを訪れた映画スターの名前がつけられています。毎年ドーヴィル・アメリカ映画祭が開かれ、

たくさんのスターが集うためです。ドーヴィルに2つある競馬場では、競馬とボコの世界選手権が開催されています。新しく国際馬術センターもできたほか、馬のせり市場で純血馬の売買も行われています。ちなみに、もともとフランスでは競馬場が王族たちの社交の場でした。今でも凱旋門賞など大きなレースには、華やかに着飾った各界のVIPがたくさんやってくるかと。そういった知識を踏まえながら競馬場に足を運ぶのも楽しいかもしれません。



遊歩道レ・ブランシュ © Tillo & Paolo - Fotolia.com



ドーヴィルの競馬場 © Patrice Le Bris

のどかな農村地域のペイ・ドージュで、フランス流田舎暮らしを満喫

ノルマンディー地方の中心に位置するペイ・ドージュ（オージュの里）は、酪農が盛んでなかでもお酒と好相性のチーズの名産地。有名なカマンベールをはじめ、リヴァロ、ポンレヴェックなどのチーズがこの地方の名産です。北フランスのノルマンディーでとれる果物はブドウではなくリンゴやナシ。だからお酒もワインよりもリン

ゴ原料のシードルやカルヴァドスや、ナシが原料のボワレなどが名物です。スイーツは特産のリンゴを使った焼き菓子。薄切りのリンゴを花のように並べて焼いたタルト・オ・ポム、カルヴァドスで香りをつけたノルマンディー風スフレなどがあります。ペイ・ドージュではぜひシャンブルドットと呼ばれる民宿に泊まって、伝統的なフランス生活に触れてみましょう。1軒の住宅が宿になっているためホテルとは違って、家主やその家族と交流を深めたり、食事もレストランではけっして食べることができない家庭の味を堪能できます。

モネの庭園から垣間見える 絵画の世界とその影に隠れる JAPONを探せ！

印象派の巨匠クロード・モネ。彼が43年間過ごしたジヴェルニーにある邸宅と庭園が公開され、今は美術好きのための巡礼地となっています。なかでも傑作『睡蓮』の世界を実際に体験できる庭園が最大の見どころ。



庭園の設計にモネは心を砕いた © Pierre Jeanson

この庭を散歩していると、光の移り変わりや水面の反射を感じる場面に幾度も出会い、印象派の世界に迷い込んでしまったような錯覚に陥ることでしょう。

日本美術にも強い関心を持っていたモネ。庭をよく見てみれば太鼓橋がかかっていたりして、私たちに親しみのある風景に出会えるかもしれません。また、邸宅の中には葛飾北斎、安藤広重、喜多川歌麿らの作品が壁に掛けられていたりもして……。そんな場面を目の当たりにすると、日本人としてほんの少し誇らしげな気持ちになることでしょう。

モネの邸宅から徒歩5分の場所にあるジヴェルニー印象派美術館では「ノルマンディー印象派フェスティバル」にちなみ、3/24(木)～7/3(日)に特別展「グスタヴ・カイユボット、画家そして庭師」を公開。カイユボットが庭園造りの構想として描いた作品や、カイユボットとモネの關係に着目した作品を展示。



ジャポニスムの影響を感じさせる太鼓橋 © Fondation Claude Monet



ペイ・ドージュの特産物 © Patrick FORGET

2016年はここに注目！

1. ノルマンディー印象派フェスティバル
2. モン・サン・ミッシェルがツール・ド・フランスのグラン・デパールに
3. 「ヘイスティングスの戦い」950周年

芸術の大家がこぞって恋に落ちたエトルタの絶景

イギリス海峡に面したエトルタは断崖で有名な人気の観光地。とくに文豪モーパッサンが「象の鼻」と呼んだアヴァルの断崖は必見で、断崖の上にある遊歩道からは左側にマンヌポルトの巨大なアーチ、中央にエトルタの針、右側にアモンの断崖を見渡すパノラマが広がり、日差しや海の変化で刻々と表情を変える姿は目が離せません。ちなみに高さ51mのとがった岩が海面にそびえたつエトルタの針は、怪盗ルパンシリーズの「奇巖城」の舞台として有名になりました。町の中には作者モー

リス・ルブランが暮らした「アルセーヌ・ルパンの館」があり、ルパンが盗んだお宝や身に付けたマントを展示しています。自然の奇跡と呼ばれた断崖はアーティストたちを魅了し、クールベ、ブーダン、モネ、マティスなどの画家たち、そして作曲家オッフェンバックも、ここをテーマに作品を残しました。一方、エトルタの海岸は19世紀から海水浴客でにぎわうようになり、断崖の上にはゴルフ場も整備されています。スポーツを楽しむ滞在型リゾートとしてもお勧めです。



「ルパンの館」 © Delphimages - Fotolia.com



エトルタの海岸 © Beboy - Fotolia

セーヌ河口の港町カラフルなおとぎの国ようこそ！

まるで絵画の世界に迷い込んだような小道やギャラリー、港のレストランなどが点在しているオンフルールは、散歩するのが楽しい街。港に並び小舟たちや、木組みのカラフルな建物たちはまるでおとぎ話のようです。オンフルールはクロード・モネを導いた画家のウジェーヌ・ブーダンの生誕地でもあります。ウジェーヌ・ブーダン美術館ではブーダンの作品のほか、ノルマンディーの民族衣装なども見ることができます。オンフルールの街を訪れたら、まず行って

みるべきなのは街の中心である旧ドック周辺。ひなびた雰囲気の良い街を散策しつつ、歴史的建造物のサン・レオナルド教会やサント・カトリック教会を訪れてみましょう。小さい街ながら、かわいらしいレストランやカフェ、お土産店があり、アウトドア好きなら周遊クルーズを楽しむこともできます。音楽好きにおすすめは、「音楽界の異端児」とも称された、作曲家エリック・サティの生家の訪問。赤と白のストライプで彩られた外観からも「異端児」ぶりを感じさせます。



港には絵描きの姿も © Thierry Houyel



オンフルールの港 © Sergiy N - Fotolia.com

キャンパスは大聖堂のファサード、 圧巻のプロジェクション・マッピング

かつてノルマンディー公国の首都だったルーアンは、水運の拠点として発展した街。ノートルダム大聖堂はモネの連作として描かれたことで有名です。2016年6月3日～9月25日は、ノートルダム大聖堂の正面壁をキャンパスに見立てたプロジェクション・マッピングが行われます。一方で、芸術家たちを魅了した一面もあります。ルーアン美術館では、2016年4月16日～9月26日までモネ、マネ、ルノワール、セザンヌ、ドガ、カイユボットといったルーア

ンゆかりの印象派画家たちによる、肖像画に焦点を当てた特別展「印象派画家の日常生活」を展示します。2014年12月に誕生したルーアンの新スポット「パノラマXXL」は、高さ35メートルの巨大な円筒型の建物。中面360度を全長100メートルのスク



ノートルダム大聖堂正面壁のプロジェクション・マッピング © Métropole Rouen Normandie



ルーアンの新スポット「パノラマXXL」 © asisi

リーンが囲んでいて、中央階段を昇りながら6m、12m、15m、それぞれ3つの異なる高さの展望スペースと角度から作品を鑑賞することができます。ここではきっと摩訶不思議なパノラマを体験できるはず！また、「ルーアン・ゴシック」という巨大なフレスコ画を招いて、ジャンヌ・ダルクが活躍した時代の街を表現しています。

Topic

第3回ノルマンディー印象派フェスティバル
2016年4月16日(土)～9月26日(月)に開催決定！

- 3年に1度開催されるルマンディー印象派フェスティバルとは、企画展を中心に、現代アート、音楽、映画、演劇、ダンス、写真、ビデオ、文学、プロジェクション・マッピング、草上でのランチ、ダンスなどあらゆる分野から印象派をとりあげるイベントの総称です。今年のテーマは「印象派による肖像画」。花と共に若い娘たちの優美な表情を描くことを好んだルノワール、婦人帽子店の売り子や洗濯女を描いたドガ、農家の娘を題材にしたピサロ・・・肖像画が近代絵画や写真芸術へとつながる大きな位置を占めるようになったのは印象派の作品のおかげ。そんな時代の鍵とも言える印象派たちの肖像画作品を軸に、多彩なイベントプログラムが組まれます。フェスティバルの中心的存在となる4つの企画展は次のとおり。
 - ルーアン美術館「印象派画家の日常生活」展
 - カン美術館「フリッツ・トーロウ(1847-1906)、自然空間を描く天才」展
 - ジヴェルニー印象派美術館「グスタヴ・カイユボット、画家そして庭師」展
 - ル・アーヴルのアンドレ・マルロー美術館「光のアトリエ、ウジェーヌ・ブーダンの肖像」展
- www.normandie-impressionniste.eu/



Topic

「ヘイスティングスの戦い」950周年を祝う年

1066年にイングランドのヘイスティングスで行われたノルマンディー公ギヨーム2世とイングランド王ハロルド2世の会戦、「ヘイスティングスの戦い」から950周年を迎えるこの機会に、戦いの記録を残したバステリーのあるバイユー（Bayeux）、ギヨーム公の生誕地ファレーズ（Falaise）、彼が眠るサン・エティエンヌ教会のあるカン（Caen）など、ゆかりの地を訪れてみてはいかがでしょうか？



ノルマンディー地方観光局 www.normandy-tourism.org
プレスコンタクト：Edouard VALERE エドゥアール・ヴァレール
e.valere@normandie-tourisme.fr

NANTES ナント

ヴォワイヤージュ・ア・ナント

Voyage à Nantes

創造力、魅力、活力にあふれたナントには、アートがあふれています！ナント生まれの作家ジュール・ヴェルヌの足跡をたどり、マシオン・ド・リルのゾウや巨大なクモに乗って街をひとまわり！ロワール河口で屋外に展示された30の芸術作品もお楽しみ下さい！

毎年夏には、芸術家、クリエイター、造園家、料理人、DJによるイベントが行われます。ナントはいつも驚きに満ちた街ですが、この期間中はさらにみなさんを驚かせます。2016年7月1日から28日まで、ほかの予定を入れないで下さいね！



マシオン・ド・リル・ド・ナント © Franck Tomps

NIMES ニーム

ニームは現在、ユネスコ世界遺産登録を目指して活動しています。

ニームの街は、ローマ時代より二千年にわたってアウグストゥスの影響下にあり、古代建築の影響は旧市街の街並みや、さまざまな門の構造や部分、建物のアーチや柱廊、装飾(柱頭やコーニスに施された古代風のモチーフ)に今もはっきり

見てとれます。

この古代建築が世界に例のないすばらしい価値を街にもたらし、時を経てニームのアイ

デンティティー、個性、特殊性となったのです。「ニーム、古代から現在へ」と題された、ユネスコへの申請資料には、古代の影響が現代まで続いていることが述べられています。



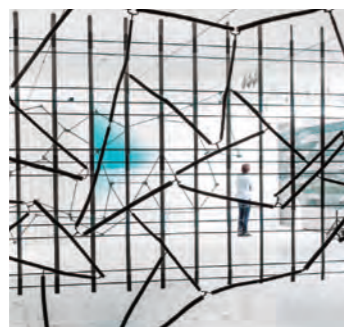
ニームの円形闘技場 © V. Chambon

RENNES レンヌ

「ロナン&エルワン・ブルレック」展、2016年3月25日～8月28日

世界的デザイナーであるロナン&エルワン・ブルレックのブルターニュ初の展覧会が開かれます。会場となるのは、レンヌでも人気の高いフナック・ブルターニュ、文化施設ジャン・リーブル、ブルターニュ高等法院の3か所です。優雅なフォルムと的確な素材・色彩が結びついた彼らの世界をご覧ください。

オブジェデザインを通して、ロナン&エルワン・ブルレックは公共スペースにマイクロアーキテクチャーというプロジェクトを実施します。ほとんどが未公開の最新作が街の4か所に展示されるのです。



ロナン&エルワン・ブルレック 2015 © Studio Bouroullec, Paris

STRASBOURG ストラスブール

国境を歩いて渡ろう

ライン川沿いにフランスとドイツの国境となる活気のある象徴的な公園があります。

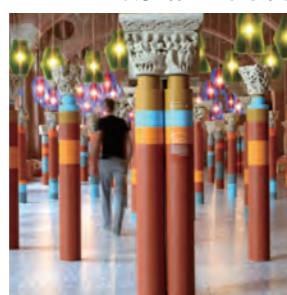
この広い公園は両国を自由に行き来できる場所であり、季節ごとに咲く花や植物が植えられ、コンサート、ダンス、サーカスなどカルチャーイベントが行われます。ライン川を挟みこの2国の対岸に架かる大きな歩道橋は、歩行者、自転車専用の橋になっています。この橋は国際的な散歩道なのです。



両国に架かる歩道橋_Philippe de Rexel - Passerelle des Deux Rives (architecte Marc Mimram)

TOULOUSE トゥールーズ

トゥールーズの現代アート・フェスティバル《プランタン・ド・セプタンブル：9月の春》 2016年9月23日～



オーギュスタン博物館 ©PatriceThebault

2年ごとに行われるヴィジュアル・アートとスペクタクルのフェスティバルです。

トゥールーズと近郊地域約20か所で行われ、すべて無料で鑑賞でき、絵画や彫刻、写真、ビデオ、シネマ・コンサート、ダンスなど、プログラムには盛りだくさんの現代作品が用意されています。5月以降プログラムが発表されます。

<http://www.printempsdesseptembre.com>

NICE ニース

毎年夏に行われるニースジャズフェスティバル

はヨーロッパ最大規模

1948年にジャック・エペイによって始められ、1994年に現在の名称に代わりました。毎年、ジャズ界の巨匠をはじめ500人以上のミュージシャンが参加し、75以上ものコンサートが開かれます。そんなニースならではの、ジャズにちなんだ地の散策も楽しむのはいかがでしょうか？

2010年まで会場であったシミエ公園には、ルイ・アームストロングの胸像があり、公園内の小道には、デューク・ガレスピー、ハービー・ハンコックなど、錚々たるアーティストの名が刻まれています。



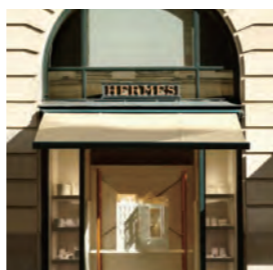
ニースジャズフェスティバル ©Atout France/Robert Palomba

POITIERS ポワティエ

メゾン・エルメスのショーウィンドウは行く人の目を惹きかせてくれます。エルメスとのパートナーシップにより、エルメス本店のプティックのウィンドウディスプレイを担当するアーティスト、アントワーヌ・プラトール Antoine Platteau の展覧会がポワティエで開催されます。

彼女の独創的なセノグラフィ（舞台美術、空間演出）手法技術で、メソンのエスプリとバロック様式のサン・ルイ礼拝堂とのコントラストをご覧ください。

2016年6月18日～8月28日、コレージュ・アンリ4世のサン・ルイ礼拝堂にて。



ポワティエのメゾン・エルメス © Hermès

SAINT-ETIENNE サン・テティエンヌ

サン・テティエンヌの郊外に位置するフィルミニニエールは、フランスで最も多くのル・コルビュジエ作品、ユニテ・ダビタシオン、競技場、教会、プール、文化会館が存在するコミュニティで、インドのシャンディガールに次ぐ、ヨーロッパ最大規模のル・コルビュジエ建築群となっています。

2016年の新規世界遺産候補地として挙がっているル・コルビュジエの17の建築群の



フィルミニニエの教会 CHIESA01 Gabriele Croppi ©Conception, Le Corbusier architecte, José Oubrerie assistant (1960-65). Réalisation, José Oubrerie archit

中に、このフィルミニニエの文化会館もそこに含まれており、サン・テティエンヌでも審査結果に関心が高まっています。

www.sitelecorbusier.com

VERSAILLES ヴェルサイユ

展覧会「オラファー・エリアソン」、2016年ヴェルサイユ宮殿にて

2016年6月～11月

2008年よりヴェルサイユ宮殿では、毎年フランス内外のアーティストの展覧会を開催しています。

今年は、世界的に高い評価を受けているデンマーク生まれのアイスランド人アーティストオラファー・エリアソンの展覧会を行います。彼の作品は、知覚、運動、身体経験、自己感情を深く探求しています。人目を引く派手なインスタレーションで知られるアーティストです。



オラファー・エリアソン Olafur Eliasson ©Rolex Tina Ruisigner

エールフランス航空

Air France



羽田、成田、関空からヨーロッパへ。全ての客室がアップグレードしたクオリティに。

エールフランス航空はこの夏、羽田、東京国際空港からパリへ最大1日2便の運航、加えて成田からも毎日1便、関空からは週6便で、朝、昼、夜と選べる充実したスケジュールで日本とヨーロッパを結びます。エールフランスが提唱する「フランス流の旅の美学」、現在のキャビン構成はファーストクラス、ビジネスクラス、プレミアムエコノミークラス、エコノミークラスの4クラスです。東京線では羽田、成田、共にすべてのフライトで最新の客室を導入しました。大阪からも順次最新客室の機材で運航いたします。

新しいファーストクラスはわずか4席、上質のスイートルーム空間を開閉の調節できるカーテンが可能になりました。柔らかな淡いブルーグレーの座席はツイード調の布とベージュのレザーで高級家具のような座り心地と材質。柔らかな間接照明、エールフランスのシンボルマーク、翼のある海馬(ヒッポカンボス)をシェードにあしらったサイドランプなど、こだわりのインテリアで極上の空の旅をお楽しみいただけます。

フランス料理の最高峰を味わうお食事は、フランスのスターシェフ達が考案する美食メニューです。

大好評のビジネスクラスは3つのFがコンセプト。フルフラット/180度水平なベッドになる座席。

フルアクセス/全ての席から通路へのダイレクトアクセス。フルプライベート/完璧なプライベート空間。現在ビジネスクラスではミシュランスターシェフが考案した軽やかで香り高いメインディッシュをパリ発で提供しています。

プレミアムエコノミークラス:ファーストサービス、セカンドサービス共に温かいお食事を提供すると共に、新しいオファー(チョコレートやキャンディー、アイスクリーム)が加わり、より快適で、楽しい旅を演出します。

エコノミークラス:足元のスペースが広くなり、新しいクッション、柔らかく、調節できる快適なヘッドレスト、ワイドテーブル等、すべてをリニューアル。電源とヘッドフォンホルダーなどを含む新しい設備が加わりました。機内エンターテインメントプログラムでは音楽、映画、テレビ番組、その他多くの番組がオンデマンドで楽しめる高画質なワ

プレスコンタクト先:

山本 裕美子 Yumiko YAMAMOTO
COMMUNICATION & PR MANAGER コミュニケーション&PR マネージャー
Tel: 03-3475-2203 Fax: 03-3475-2229
E-mail: yuyamamoto@airfrance.fr

イドタッチスクリーンを装備しました。

チケットの予約、購入はもとより、搭乗券もスマートフォン上で発券。エールフランスのサイト上に(PCおよびスマートフォン)ご自身のパーソナルスペースを作成し、フライト予約に必要な個人情報に加えて座席の好みなどを入力すれば、マイレージの管理から予約の変更などがさらに簡単な操作で可能になります。日本語でのツイッター、フェイスブック、さらに音楽専門サイト「エールフランスミュージック」、さらに広がりを見せるエールフランスのソーシャルメディアにもご注目ください。

AIR FRANCE "FRANCE IS IN THE AIR" エールフランス航空は「一歩入ればそこはフランス」と呼ばれる優雅な空の旅をこれからもお届けしてまいります。ウェブサイトでは★ついフランス語で言ってみたくなる、エールフランスの魅力★で8つのサービスを紹介するチャーミングな動画が人気です。



株式会社 エイチ・アイ・エス

H.I.S.CO.,LTD.



プレスコンタクト先：
高司 奈奈 Nana TAKAJI
広報担当
Tel: 03-5908-2346 Fax: 03-5908-2187
E-mail: his-pr @his-world.com

ヨーロッパの観光の中心フランスへ ～ H.I.S. ならではの個性豊かな旅のスタイル・観光地・観光内容のご提案～

【アレンジ自由自在 個人旅行パッケージ Ciao (チャオ)】

毎日出発でき、経由便、直行便などの航空券、ラグジュアリーからバジェットホテルまで滞在ホテルの組み合わせができるツアーブランド Ciao は誕生から 25 年を迎えても日々進化しています。本当に美味しいフランス料理をお楽しみいただくため、「フランス美食旅」の第 2 弾となる美食の街リヨン・マルセイユをパリのコースに加え造成いたしました。日本におけるフランス料理の第一人者坂井宏行シェフ監修のレシピ本も作成し非常に好評を得ています。当コースでは、アパートメントホテルプランをご用意し、マルシェや、スーパーマーケットで食材を買い物した後、レシピ本を参考に料理をお楽しみいただくことで暮らすように滞在することを提案しております。

安心の頼れる添乗員同行の旅 impresso (インプレッソ) ～もっと安心・さらに快適・そして自由に～ 日本初！フランスが誇る二つの名所貸切ツアーを発表。

毎年大好評頂いていますルーヴル美術館厳選フロア貸切見学ツアーも今年で 8 年目。年間入場者数世界一を誇る美術館を H.I.S. だけのお客様で貸切。いつも混雑する人気のモナリザもゆったり鑑賞できる人気のツアーに、今年はプロのフォトグラファーがモナリザとお客様との写真を撮影しプレゼントするという特別企画をご用意しました。また新貸切プランとしてヴェルサイユ宮殿の貸切見学を組み込みました。観光客で非常に混み合っているヴェルサイユ宮殿内の「鏡の間」を、ゆったりと見学でき、また、通常入ることができないマリアント

ワネットとルイ 16 世が結婚式を挙げた「王室礼拝堂」に特別入場いたします。美術館として世界一の入場者数を誇るルーヴル美術館と、世界でも華麗な王宮といわれるヴェルサイユ宮殿の、2 つの贅沢な貸切見学を一度のご旅行でお楽しみいただけます。インプレッソでは、これからもお客様の声に耳を傾け、こだわりの旅をご提案してまいります。

H.I.S. の原点 自由旅行～海外航空券・海外ホテル～

直行便、経由便、エコノミー、プレミアムエコノミー、ビジネスクラスなどの航空券、現地支店直接仕入れのホテル、オプションツアー、鉄道チケット、レンタカーを組み合わせる自由旅行も国内第一の品揃え。経験豊富なスタッフがお待ちしております。



ギャラリー・ラファイエット パリ・オスマン

Galleries Lafayette Paris Haussmann



プレスコンタクト先：
小池 靖子 Yasuko KOIKE
広報担当
Tel: +33 (0) 1 73 71 91 86
E-mail: ykoike@gallerieslafayette.com

ショッピングを楽しめる最高の場所

～フランスの百貨店 ギャラリー・ラファイエット パリ・オスマン～



ギャラリー・ラファイエットの本店、オスマン大通りにある最大規模の店舗は、1 世紀以上に渡り、ファッション界の見本となってきました。トレンドを反映しながら新たな才能を見だし、価値あるブランドの

地位を確立させています。最大規模のモード関連スペース、インテリア雑貨やグルメ商品などフランス国内外の約 3500 ブランドを、本館、紳士館、メゾン&グルメ館の全 3 館、売場面積 7 万㎡に渡りお取り扱いしています。コレクションをつねに更新し、フランスや世界中の最高のクリエイションを紹介。今日、そして未来のファッションに対する現代的で新しい独自の視点を示しています。毎週金曜日 15 時から開催している定期ファッションショーでは、最先端のパリモードを体験いただけます。

きめ細かいサービスと、1912 年に建造されたネオビザンチン様式のクーポール (丸天井) など歴史的な建物を誇る当店は、パリを訪れる方たちにとって欠かせない場所といえるでしょう。

グルメ&レストラン、カフェ ～食品のお買い物は「グルメ」で～

メゾン&グルメ館の地下 1 階と地上階にまたがる食品フロア「グルメ」では、日常のお買い物からとおきのプレゼントまで、フランスの特産品や有名ブランドの名品など、選り抜きの商品が並びます。同館 1 階にある「ラ・カーヴ」では、ワイン、シャンパン、スピリッツを取り揃えており、1000 を超える銘柄をご紹介します。愛好家の方にも喜んでいただける豊富なセレクションをご用意しています。

また、全 3 館には、約 20 ものカフェやレストランをご用意。ショッピングの合間に気軽にご利用いただけます。

カルチャー

～クリエイター達を紹介する文化的空間「ギャラリー・デ・ギャラリー」～
本館 1 階にあるギャラリー・デ・ギャラリーでは、コンテンポラリー

なオブジェへのアプローチとして、モードやデザインをテーマに、造形芸術の展示会を年に 4 回開催しています。

サービス

ギャラリー・ラファイエット・パリ・オスマンは、ショッピングの前も、間も、後も、素晴らしいひと時を過ごしていただけるよう、さまざまなサービスを提案しています。本館地下 1 階の日本人カウンター「ジャパニーズ・カスタマー・サービス」では、館内の総合案内、館内電話通訳、免税書類作成など専任スタッフが充実したサービスを提供しています。



フランス政府公式機関 アンスティチュ・フランセ日本

Institut français du Japon



プレスコンタクト先：

津田 桜 Sakura TSUDA
Tel: 03-5798-6008 **Fax:** 03-5798-6026
E-mail: sakura.tsuda@institutfrancais.jp

フランスへの近道、アンスティチュ・フランセ日本！

毎年 2000 人を超える日本人が 3 ヶ月以上の長期フランス留学に旅立っています。短期間でフランス語やフランス文化を学ぶために渡仏している人も加えると、日本からフランスに留学している人は数知れません。

フランス政府公式機関の「アンスティチュ・フランセ日本」は、それぞれの目的に合った留学計画作りのお手伝いをしています。また、フランス語をかじってみたい、フランス旅行に備えたい方には、月 1 で開講されるアンスティチュ・フランセ東京の単発講座「France EXPRESS」

をオススメします。出発前に簡単なフランス語を勉強して、素晴らしい旅の体験で心に残る出会いや思い出を作りましょう。

日本にいながらフランスを体感できるアンスティチュ・フランセでは、いつでも皆様をお待ちしています。他の語学学校にはないイベント（映画、ライブ、舞台芸術、展覧会、講演会、ワインセミナーなど）が盛り沢山です。



www.institutfrancais.jp

ローラン・ペリエ

Laurent-Perrier



プレスコンタクト先：

広報担当：株式会社フレア 岡部 昭子
 Akiko OKABE, FLAIR Inc.
Tel: 03-5765-6631 **Fax:** 03-5765-6632
E-mail: ao@flairjapan.com

ローラン・ペリエ：2 世紀にわたるエレガンスの追求

1812 年に創立されたローラン・ペリエは、家族経営のシャンパンメゾンの中で世界最大のメゾンです。その成功の陰には、「信念を貫く事」、「情熱」という 2 つのキーワードがありました。

その「信念」とは自然を尊重しワインを尊重する事、ひた向きに品質を追求する事、人を大事にするという 3 つの信念です。そして「情熱」とは、ローラン・ペリエを世界で指折りのシャンパンメゾンに育て上げた前当主、故ベルナルドゥ・ノナンクール氏の情熱です。ローラン・ペリエの創造性あふれる数々のシャンパンは、この情熱と、伝統と革新を融合するという独創的で自由な発想から生まれました。彼の情熱は、2 人の娘で

現当主である長女のアレクサンドラと次女のステファニーによって引き継がれています。

ローラン・ペリエのすべてのシャンパンに共通しているのは、「フレッシュさ」、「バランスの良さ」、そして「エレガントさ」です。このすべてのシャンパンに貫かれているメゾンの個性的なスタイルは、3 代目のセラ・マスター、ミシェル・フォコネとそのチームに受け継がれています。

“独創性のある自由な精神”によって生み出されたローラン・ペリエのオリジナリティあふれるラインナップから、あらゆる食事、シーンに寄り添うシャンパンを選び出せる事でしょう。

http://www.suntory.co.jp/wine/special/laurent_perrier

世界遺産

PATRIMONE MONDIAL DE L'UNESCO

2015年第39回世界遺産委員会にてフランスで新たに2カ所が世界遺産に登録されました。

シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ

「シャンパーニュの丘陵、メゾンとカーヴ Coteaux, Maisons et Caves de Champagne」は「農工システムにより組織化された地域の領土と社会、ならびに祝祭の彩りとしての世界的認識」に鑑みて〈文化的景観〉としての申請をし、登録を受けました。

なだらかな丘陵に広がるブドウ畑はフランスを代表する景色でもあります。また、石材を切り出した後の地下空間がシャンパーニュの熟成庫として利用されるなど、人々が土地と結びつき、自然に働きかけて作り上げてきた景観です。



シャンパーニュのカーヴ ©Atout France/Olivier Roux



クロ・ド・ヴージュ ©Alain Doire - Bourgogne Tourisme

ブルゴーニュのブドウ畑のクリマ

「ブルゴーニュのブドウ畑のクリマ Les Climats du vignoble de Bourgogne」は「人類が 2 千年をかけて育み、世界に伝播した他所にはないブドウ栽培のモデル」として〈文化遺産〉分野での登録を受けました。

黄金の丘と呼ばれる地域を中心に開墾されたブドウ畑は、キリスト教、とりわけブルゴーニュ地方を核とした修道院制度とともに発展しました。確固たる地位を確立したワイン造りはビジネスモデルとして世界各地で踏襲されています。

2016年新規登録の候補地

ル・コルビュジェの建築群

ル・コルビュジェは主にフランスで活躍した建築家で、近代建築三大巨匠のひとりと呼ばれています。「住宅は住むための機械である (Machine a habiter)」という思想のもと、鉄筋コンクリートを使った建築作品を数多く作り、今ではその多くが歴史的建造物として保護されています。

そんな彼の建築作品が 2016 年の世界遺産候補として推薦されています。過去に 2 度推薦されましたが登録には至らず、今回が 3 度目の挑戦です。登録を目指すのは 7 カ国 17 作品で (上野の国立西洋美術館を含む)、フランスでは次の建物が候補となっています。第 40 回会議の審査結果は 2016 年 7 月に発表される予定です。

- ラ・ロッシュ・ジャンヌレ邸 Maisons La Roche et Jeanneret (Paris)
- ベサックの集合住宅 Cité Frugès (Pessac)
- サヴォア邸 Villa Savoye (Poissy)
- ナンジュセル・エ・コリ通りのアパート Immeuble locatif à la Porte Molitor (Boulogne-Billancourt)
- マルセイユのユニテ・ダビタシオン Unité d'habitation (Marseille)
- サン・ディエの工場 Manufacture à Saint-Dié (Saint-Dié)
- ロンシャンの礼拝堂 Chapelle Notre-Dame-du-Haut (Ronchamp)
- カップ・マルタンの小屋 Cabanon de Le Corbusier (Roquebrune-Cap-Martin)
- ラ・トゥーレットの修道院 Couvent Sainte-Marie-de-la-Tourette (Eveux)
- フィルミニの建築群 Firminy-Vert (Firminy)



写真上：フィルミニ・ヴェールの文化会館 Photo: Olivier Martin-Gambier ©FLC/ADAGP, 2015
 写真左下：ロンシャンの礼拝堂 Photo: Paul Kozlowski ©FLC/ADAGP, 2015
 写真右下：マルセイユのユニテ・ダビタシオン Photo: Paul Kozlowski ©FLC/ADAGP, 2015

◆フランスの世界遺産は 2015 年 7 月の時点で全 41 カ所。登録地のリストは <http://jp.france.fr/unesco> をご覧ください。◆



2016年 キャンペーンパートナー

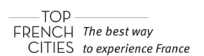
ミディ・ピレネー地方観光局
Comité Régional du Tourisme de Midi-Pyrénées



ノルマンディー地方観光局
Comité Régional de Tourisme de Normandie



都市観光クラブ
Cluster Tourisme en ville



エールフランス航空
AIR FRANCE



株式会社エイチ・アイ・エス
H.I.S. CO., LTD.



ギャラリーラファイエット百貨店 パリ・オスマン本店
Galeries Lafayette Paris Haussmann



ローラン・ペリエ
Laurent-Perrier



アンスティチュ・フランセ日本
Institut français du Japon



フランス観光開発機構
〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-9 ラウンドクロス赤坂 9 階
広報担当 増田真由美
TEL : 03-3582-6983
Email : presse.jp@atout-france.fr
jp.media.france.fr/

